



郷土史

ていね

第 5 号

平成 20 年 5 月 14 日
手稲郷土史研究会会報

新会長就任のごあいさつ

手稲郷土史研究会

会長 國井 和夫



手宮一札幌間の鉄道開通が明治 13 年、翌年には軽川（手稲）に停車場が、この前後から手稲町の時代まで、代々手稲の地に暮らしの根拠を築いてきた人々を、私は敬意をこめて“手稲人”と呼んでいます。この定義からすると、昭和 37 年に手稲町に居をかまえた私も“手稲人”のはしぐれです。

当時の手稲町の人口は約 2 万人、現在は 13 万 8 千人を超えています。つまり、10 万人以上の住民は市との合併（昭和 42 年）後の移住者です。手稲とは、そしてまちづくりの方向は、と多くの区民の皆さんの要望に応えるのもこの研究会の役割かと思えます。

幸い、区としても、歴史資料のデータベース化に取り組み、それがホームページに載って、世界に発信するという嬉しい動きがあります。

前任者の小林幸男会長は、手稲史に造詣の深い方でしたが、私は歴史オンチ。ただ、手稲をもっと住みよいまちに、と願う気持は人一倍です。前任者同様、変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



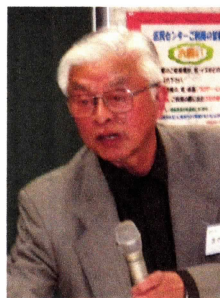
定期総会開催

4 月 9 日には、定例会と併せて定期総会が行われました。36 名参加のもとに、平成 19 年度の事業報告、収支決算報告、平成 20 年度の事業計画、役員選任などの案件が可決されました。詳細は、「定期総会議案書」をご覧ください。



「新札幌市史」完成記念のシンポジウム

3 月 28 日、パークホテルにて「新札幌市史」完成記念シンポジウムが開催され、茂内義男当研究会副会長が手稲の歴史について発表されました。



手稲区歴史資料がホームページに!!

手稲区内にある郷土資料がデータベース化され、インターネットにより、一般にも公開される運びとなりました。その作成に携わった手稲区役所の田中さん、三海さんから、そのシステムの内容について、スライドを使った詳しいご説明をいただきました。

お二人の多大なるご尽力により、4 月末日よりわが郷土「手稲」の歴史が盛りだくさんの内容で、全世界に向けて広く公開されることになりました。

お二人に心から敬意を表したいと思います。



次回研究会のお知らせ

次回（6 月 11 日）は、西尾貞敬氏（元手稲鉱山勤務）の「手稲鉱山よもやま話」の講話と三国勲氏の会員発表「手稲鉱山に生きて」を予定しております。

